



株式会社 東京自働機械製作所
Tokyo Automatic Machinery Works, Ltd.

証券コード：6360



東京自働機械

第74期報告書 株主通信

2022年4月1日～2023年3月31日

2023 BUSINESS REPORT

トップメッセージ

Top Message

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より当社に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第74期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の事業の概況について、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2023年6月

代表取締役社長

佐藤 康公

代表取締役会長

山本 治男

今期の業績

第74期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収まり、ようやく経済活動の持ち直しが期待されています。一方で、長期化する半導体や製品・部品の調達困難な状況は全く改善が見られず、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰、不安定な為替相場等、先行き不透明な状況で推移しました。

このような経済情勢のもと、当社は全社を挙げて業績の確保に努めました結果、当事業年度における業績は、売上高133億6百万円（前年同期88億1千9百万円、50.9%増）となりました。利益面では、原材料価格高騰による原価率の悪化や人件費、販売活動費等の増加があったものの、売上が大幅に増加したこと等から、営業利益9億8千5百万円（前年同期3億8千6百万円、155.2%増）、経常利益11億3千8百万円（前年同期5億2千6百万円、116.0%増）、当期純利益7億9千9百万円（前年同期3億7千3百万円、114.1%増）となりました。

売上高

13,306百万円

営業利益

985百万円

経常利益

1,138百万円

当期純利益

799百万円

包装機械、生産機械の概況

各セグメント別の業績は次のとおりであります。

包装機械部門におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収まり、積極的な営業活動を展開する中、部品調達困難な状況が継続し、厳しい事業環境での受注活動を余儀なくされました。このような状況下、売上高は50億4千1百万円（前年同期45億4千4百万円、10.9%増）を確保することができました。セグメント利益は、部材費の価格上昇による原価率の悪化や、販売費・一般管理費の増加等から、4千6百万円の損失（前年同期2千万円の利益）となりました。

生産機械部門におきましては、大型プロジェクトを中心に受注が堅調に推移し、売上高82億6千5百万円（前年同期42億7千4百万円、93.3%増）となりました。セグメント利益は、部品の価格上昇や納期遅延等により原価率が悪化したものの、大幅な売上増により16億5千3百万円（前年同期9億1千7百万円、80.3%増）となりました。また、共通費は6億2千1百万円（前年同期5億5千1百万円、12.7%増）となりました。

今後の取組み

包装機械事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収まり、ようやく経済活動の持ち直しが期待されていますが、部品調達困難な状況は全く改善が見られず、より一層先行きが見えにくい状況が続いております。一方で人手不足や合理化によるコスト削減は今後も継続するものと見られ、加えて時流である「環境」「自動化」「IoT」「紙包装」等のキーワードに沿った設備投資も顕在化していくと思われま

す。また、生産機械事業におきましては、海外特定顧客の設備投資動向が引続き堅調ではあるものの、包装機械事業と同様、世界経済の予断を許さない景気動向からその設備計画の変更も予測されますので、最新の顧客動向の把握に努め、顧客との信頼/協業関係を更に深める必要があります。

このような状況下、当社といたしましては、お客様のニーズや時流に合った商品開発、顧客提案を実施していくことで包装機械事業の売上拡大、収益力向上を図ることが喫緊の課題と認識しております。

当社は2021年度をスタートとする第6次中期経営計画を策定しており、コミュニケーションの更なる深化をもとに生み出す新たな発想を具現化し、社会に新たな価値を提供し続ける「価値創造企業」となることを目指し、本中期経営計画においては以下の基本方針を掲げております。

- ① 技術開発力と顧客要求完遂力を基盤に他社と差別化
- ② 包装機械/生産機械の両事業により売上/利益を確保
- ③ 経営基盤強化を図り事業の継続性/成長力を確保
- ④ 必要人材の確保/育成/登用と円滑な世代交代の実現
- ⑤ 持続可能な社会の実現に貢献できる事業の推進

今後も社会情勢や景気動向を注視しながら、これらの課題に対処し、継続的な成長を目指す所存です。

製品のご紹介

Product Information

当社の主な製品についてご紹介します。

紙包装機

(銘産品／贈答品用包装機)

納入実績日本一を誇る銘産品／贈答品用の上包機です。美しい包装仕上がりが評価され、全国各地のお客様にお使いいただいています。



製袋充填機

(縦型ピロー包装機)

各種商品を袋詰する包装機です。スナックやキャンディ等のお菓子、コーヒー、小麦粉等の粉もの、冷凍食品等あらゆる商品の袋詰機械として活躍しています。



フィルム包装機

(集積上包機)

様々な箱ものを集積包装する機械です。前・後工程とのライン化にも柔軟に対応し、包装工程の高速、効率化に貢献しています。



粉体充填機

(オーガー充填機)

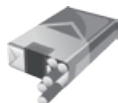
品種替えや清掃等にかかる作業時間を大幅に削減した粉体充填機です。当社の製袋充填機と一体型の粉体充填システムも豊富な納入実績を誇ります。



たばこ生産機械

(フィルタプラグ関連機械)

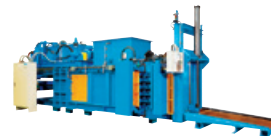
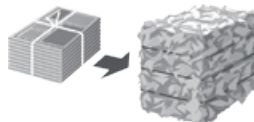
40年以上の経験と実績から生まれた、コストパフォーマンスの高い、たばこのフィルタプラグ関連機械です。中国、韓国、台湾への納入実績もあります。



リサイクル機械

(自動結束ベラー)

回収されたペットボトル、布、古紙等を圧縮梱包する機械です。高密度の圧縮梱包により、輸送コストの削減に貢献しています。



ラインシステム

商品の特性や設置スペース等に合わせ最適な包装ラインを提案し、お客様の課題解決に取り組んでいます。様々な機械を組み合わせ、生産ラインの自動化や省人化に貢献しております。

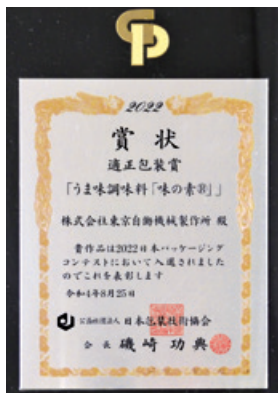
写真のラインシステムではスナック等を製袋充填機で袋詰めし、自動で段ボール詰めまで行います。



各種生産機械（大型プロジェクト等）

お客様のニーズに合わせて当社の製品開発技術力により開発した各種の産業用機械・設備・装置を提供しています。海外へも販売しています。

「包装技術賞／適正包装賞」、「AsiaStar 2022」、「WorldStar 2023」受賞



当社の縦型ピロー包装機をお使いいただいている味の素株式会社様の「味の素®」、「うま味だし・ハイミー®」の紙パッケージが、「2022日本パッケージングコンテスト」において「包装技術賞／適正包装賞」を受賞いたしました。さらに、アジア包装連盟「AsiaStar 2022」、世界包装機構「WorldStar 2023」でも入賞いたしました。

従来のプラスチックから紙のパッケージに変更することによって、プラスチック使用量が年間約12t（2020年度比）削減できる見込みです。また、業界のリーダーである味の素株式会社様の取組みが波及効果をもたらし、他の企業がより環境に優しいパッケージを採用するようになることも期待されています。

世界でも高い評価をいただいた包装技術を通じて、今後も持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります。

2022年10月にサステナビリティ基本方針を定めました。

取組みおよび指標、各種の方針については有価証券報告書やホームページで順次公開してまいります。

サステナビリティ基本方針

私たち東京自動機械製作所は「企業は生活協同体である」という社是のもと、幅広いステークホルダーの皆様のご協力により、成長と発展を遂げてきました。これからも事業を通じてステークホルダーの皆様と協働し、「持続可能な社会の実現」と「持続的な企業価値向上」の両立に挑戦することで、社会から信頼され必要とされ続ける企業を目指します。

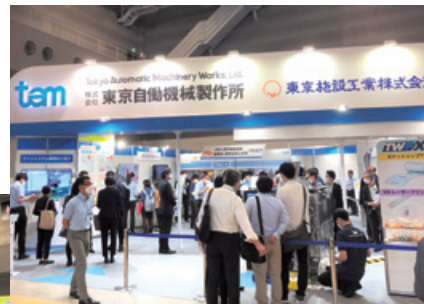
そのために、特定した以下の4つのマテリアリティ（重要な課題）ごとに対応方針を定め、組織の意思決定プロセスに組み込み、継続的に取り組んでいきます。

① 地球環境への配慮	事業を通じて与える地球環境に対する悪影響を低減し、脱炭素・循環型社会に対応する持続可能な新しい価値を創造することを目指します。
② 事業を通じた社会への貢献	「安全」「安心」「高品質」かつ「生産・流通でのロス低減」を可能とする製品の提供を通じて、お客様の企業価値向上と社会的課題の解決に貢献します。 また、社会から必要とされる企業であり続けるため、地域貢献に取り組みます。
③ 誰もが自分らしく能力を發揮できる職場	多様な個性と価値観が尊重され、誰もが受け継がれた技術や高めた能力を最大限に發揮し、イノベーションを生み出すことができる職場を築きます。
④ 経営基盤の強化	コンプライアンスの徹底およびコーポレートガバナンスの充実を通じ、経営の健全性、透明性を確保するとともに、会社を取り巻く様々なリスクに対するレジリエンスを高め、経営基盤を強化します。

展示会

第74期は2022年4月に「2022 中部パック」、2022年6月に「FOOMA JAPAN 2022 国際食品工業展」に出展し、多くの包装機を実演・展示しました。コロナ禍による行動制限が緩和されたことによって、ご来場いただくことができなかったお客様もご来場されるようになり、徐々にコロナ禍前の活気が戻りつつあります。

今後も魅力ある製品づくりに努めるとともに継続して各展示会に参加し、新機種をはじめとした当社製品の販売拡大に取り組んでまいります。



健康優良企業「金の認定」取得

健康企業宣言東京推進協議会が運営する健康優良企業制度において、「健康優良企業～金の認定～」を取得しました。健康優良企業とは、企業全体で健康づくりに取り組むことを宣言し、「職場の健康経営」、「本人と家族の健康づくり」、「安全衛生」等の項目について、企業の取組みが達成基準を満たしていると認められた場合に取得できる認証です。2023年5月1日現在、健康企業宣言をした3,332社のうち、当社を含めた118社が認定されています。

今後も社員一人一人が心身ともに健康で安心して働ける職場となることを目指し、この取組みを続けてまいります。



会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	株式会社 東京自働機械製作所
設立	1944年6月
資本金	9億5,400万円
従業員数	256名
事業内容	一般各種自動包装機械、たばこ製造・包装機械、圧縮梱包機、組立機などの開発・設計、製造、販売

役員 (2023年6月28日現在)

代表取締役会長	山本治男
代表取締役社長	佐藤康公
取締役	太田直人
取締役	渡邊義達
取締役	吉邊英司
取締役	長友康夫
取締役	中村洋一
常勤監査役	石原英威
監査役	山口秀夫
監査役	前田剛介

株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル)

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数	4,000,000株
発行済株式の総数	1,452,000株
株主数	1,287名

事業所一覧

- 本社 東京都千代田区岩本町3-10-7 (東自機ビル)
TEL : 03-3866-7171 (代表)
- 大阪営業所 大阪市西区阿波座1-15-15 (第一協業ビル6階)
- 名古屋営業所 名古屋市中区村区大日町4-2 (パールハイツ1階)
- 福岡営業所 福岡市博多区博多駅東2-5-19
(サンライフ第三ビル8階)
- 札幌営業所 札幌市西区琴似3条1-1-20
(コトニ3・1ビル5階)
- 設計開発部 千葉県流山市駒木台149
- 柏工場 千葉県柏市西原7-3-1

公告掲載方法 (公告掲載URL)

https://www.tam-tokyo.co.jp/ir/ir_densikoukoku.html
当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。

証券コード 6360

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード

